

伐木技術普及研修（沿岸広域振興局管内）の実施について

1 はじめに

岩手県では、県内林業従事者の伐木技術向上と労働災害の未然防止を目的として、広域振興局単位で伐木技術普及研修を実施しています。

沿岸広域振興局管内では、令和7年10月22日に宮古会場、令和8年1月15日に釜石会場と2回開催しており、今回は釜石会場での実施内容を紹介します。

2 研修内容

釜石会場では、伐木技術指導員3名を講師とし、林業事業体から8名の参加となりました。

また、本研修に併せ、「釜石地方林業活性化セミナー」として、林業事業体以外の関係者に対し実技の見学及び講義受講の案内を行ったところ、林業関係団体・行政関係者等、計26名の参加となりました。

（1）安全装備の確認、チェーンソーの点検

実技開始にあたり、受講者のヘルメット・防護服等の安全装備、並びに各自のチェーンソーの整備状況の点検を行いました。

受講者は、自身では気づきにくい整備不足箇所、その確認方法等を講師から指導され、改善点を確認することができました。

（2）簡易伐倒による伐木技術指導

最初に、伐木技術指導員が伐採に入る前の安全確認から受け口、追い口の作成、伐倒方向の精度確認及び各部寸法確認までを段階的に実演し、工程ごとに注意点等のポイント解説を行いました。

技術指導について、経験が浅い受講者には個別に指導を行うなど、受講者の理解度に応じた班分けと指導体制で実施しました。

参加者は、実技実施後に数値測定と講師の講評を受けることで、自身の技術の課題を客観的に把握し、改善に向けた具体的な助言を得ることができました。

（3）林業技能検定に関する講義

実技後、沿岸広域振興局農林部より林業技能検定制度について講義を行いました。

講義の内容については、公表されている資料をまとめたものを用意し、林業技能検定制度の概要、装備に関する注意点、検定における合格率、事前準備の重要性などを説明したほか、失格要件の補足説明を行いました。

伐木技術指導員からは、資格を取得することすることも大事だが、安全に伐倒作業を行える技術を習得することが最も大切であること。検定は、普段と異なる環境下において、検定員に見られながら作業するため、気をつけていても、安全確認の漏れや好ましくないクセが出やすく、本日の実技で行った安全確認、正しい作業手順及び作成技術を日頃から意識してほしい等のアドバイスが伝えられました。

3 今後の取組み

今後も、地域の林業事業体・従事者への安全作業啓発を継続するとともに、技能検定資格取得促進等の技術者育成を支援していきます。



簡易伐倒による技術指導の様子